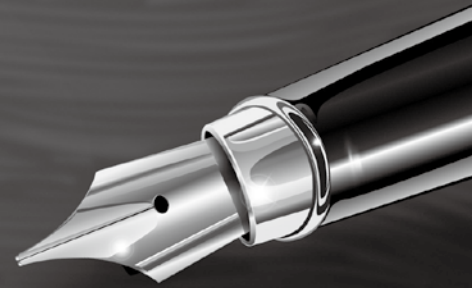




# 渡り方の教え方



国立研究開発法人  
防災科学技術研究所 特別研究員

島崎 敢

子供たちが「みゝぎ、ひだり、みゝぎ」と声を出しながら左右を見て道を渡っている光景をよく見かけます。安全確認はとても大切なことだし、ほほえましい光景でもあります。だから「左右をよく見て渡りましょう」と言うのは良いことですが、対象が小学校低学年以下の子供なら、もう少し伝え方を工夫する必要があるかもしれません。

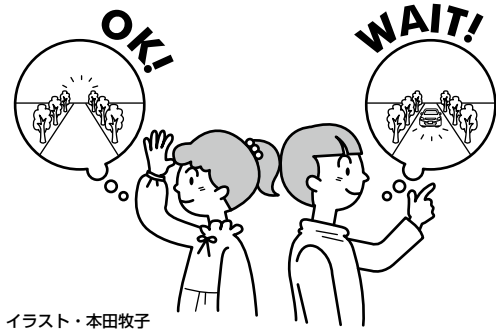
なぜ左右をよく見て渡らなければならないかというと、左右から車が来るかもしれないから。そして、車が来るときに道を渡ると轢かれるからです。だから車が来ていることを確かめるのです。これを読んでいる大人のあなたは「あたりまえじゃん」と思うでしょう。そう、大人には当たり前に理解できることですが、小さい子供には「左右を見る」とこの目的の理解や見なかった場合の推論ができません。左右には交差道路の車以外にも実に様々なものがあります。お店の看板や花壇のお花など興味を引くものもたくさんあります。顔を大きく左右に振ると「あーら、ちゃんと左右を見ている偉いわね」なんて大人に褒められたりします。ここで、子供が「左右を見る」とこの目的を理解していないと、左右に顔を振る行為だけが強化されて、車を探す行為が省略される場合があります。

人間の視野は中心付近だけが鮮明です。視力検査で測るのはこの中心付近の視力。しかし、視野の周辺にいくほど視力は下がり、色や形ははっきりわからなくなります。このことは日常生活では意識されませんが、試しに正面の目印を見つめたまま、視野の周辺に色のついたものや文字の書かれたものを置いてみると、色や形がほとんどわからないはず。つまり、遠くの車を見落とさないためには、顔をそちらに向

それでは子供にどうやって道の渡り方を教えたなら良いでしょうか。私には5歳と3歳の娘がいますが、私は子供たちに「車来てる？」と訊くことにしています。「左右を見て」というだけでは左右の何を見ればいいのかわからないし、見ることの目的もわかりません。でも「車来てる？」と訊けば、来ているかどうかを親に伝える必要があります。だから車を探さなければなりませんし、車を見つけるために左右を見ているんだということもわかります。

答えが「来てる」ならば、「渡れる？」と続けます。「来てない」ならば「左からは来てる？」と反対側を見るように促します。ここで確認に時間がかかる、その間に反対から車が来ってしまう場合があります。でもそこはじっと我慢して待つところ。大人が答えを言っただけじゃありません。しつこく「右からは？」「左からは？」「渡れる？」を繰り返します。しつこく聞くことで「右、左、右」は最低限の確認回数で、状況によってはもっと何度も見なければいけないこともわかってもらいましょう。考えてみればこの教え方は渡り方以外にも当てはまります。子供は推論や洞察の力が未熟です。だから行動をモジュールズに分解して、ひとつひとつ丁寧にやることが伝える必要があります。そして「ああしなさい」「こうしなさい」と行為だけを伝えるのではなく、なぜその行為が必要なのかを考えてもらうために、適切な「質問」を投げかけるべきなのかもしれません。

「来てる？」「渡れる？」をやっていると「みゝぎ、ひだり、みゝぎ」のようにテンポよく行かないので、いつまでたっても道を渡れないこともあります。だから、子供と一緒に過ごすときは時間と心に余裕を持って出かけましょうね。(しまぎき・かん)



イラスト・本田牧子

「OK!」「WAIT!」のようにつけ声に合せてリズムに乗って確認すると、確認に制限時間ができます。右をもっと見たいのに、次の「ひだり」が始まってしまい、左をもっと見る必要があるのに、次の「みゝぎ」が始まってしまいます。また、このかけ声で左右を見ている子供をよく観察すると、「みゝぎ」や「ひだり」の部分では顔を動かして「みゝぎ」や「ひだり」の瞬間しか交差道路に視線を向けていません。「みゝぎ」や「ひだり」の僅かな時間では、経験を積んだ大人でも車までの距離や速度を正しく見積もるのは困難です。



けるだけでは不十分で、視力の良い視野の中心部分を道路の消失点に向ける必要があるのです。

渡れるかどうかの判断をするためには、少し時間もかかります。「渡れる」という判断をするのは、「渡るのにかかる時間」よりも「車がここに到達するまでの時間」が長い場合です。「車がここに到達するまでの時間」を見極めるためには、車までの距離と速度を見積もる必要があります。このうち速度は、「車が一定時間にどの程度動いたか」から見積もられます。この「一定時間」は、長いほど速度を正確に見積もることができます。どのぐらい時間をかければ十分かは、車までの距離や背景ノイズ、明るさ、見積もる人の経験など、様々な要因に影響されます。だからこの確認作業に「制限時間」を設けてはいけません。

しかし、「みゝぎ、ひだり、みゝぎ」のようにかけ声に合

わせてリズムに乗って確認すると、確認に制限時間ができます。右をもっと

見たいのに、次の「ひだり」が始まって

てしまい、左をもっと見る必要がある

のに、次の「みゝぎ」が始まってしま

います。また、このかけ声で左右を見

ている子供をよく観察すると、「みゝぎ

」や「ひだり」の部分では顔を動かして

「みゝぎ」や「ひだり」の瞬間しか交差道

路に視線を向けていません。「みゝぎ」

」の僅かな時間では、経験を積んだ大人でも車までの距離や速度を正しく見積もるのは困難です。

